

NICU における Family-Centered Care

浅井宏美¹⁾, 井出由美²⁾, 菊地信子³⁾

キーワード (Key words) : 1. ファミリーセンタードケア (Family-Centered Care)
2. NICU (Neonatal Intensive Care Unit)

米国 Institute for Family-Centered Care によれば, Family-Centered Care (以後 FCC とする) は, [尊厳と尊敬] [情報の共有] [参加] [協働] の4つの概念からなるケアの理念である。

NICU 看護において FCC は, 大変重要な分野であり, 最近, 大きな関心を集め, さまざまな取り組みがなされてきているものの, 面会に関する規定や子どもの病状や治療に関する説明のあり方, 家族のための設備, 家族同士の交流など施設での格差があることも報告されている。また, FCC の実践には, マンパワーや施設的环境だけでなく, 医療者の考え方や態度も大きく影響するとされる。私たちには, 子どもの最善を家族と共に考えるパートナーとなり, 子どもと家族が主役になれるようなかかわり方や関係づくり, 環境づくりが求められている。人材育成の強化や組織文化の刷新も課題である。

このワークショップでは, 古くて新しい FCC の考え方に関する説明, 日本の現状に関する研究報告, 臨床での実践とスタッフ教育に関する取り組み, 先駆的なアメリカでの取り組みなどについて情報を提供し, 臨床現場において FCC を推進し, 根付かせていくための戦略について, 参加者の方々と意見交換を通じて検討していきたいと考えた。

I Family-Centered Care の概念とその変遷

首都大学東京健康福祉学部看護学科 浅井 宏美

II Family-Centered Care に関する臨床での実際の取り組み

昭和大学病院総合周産期母子医療センター 井出 由美

・ Family-Centered Care in NICU

・ 所属 : 1) 首都大学東京健康福祉学部看護学科 2) 昭和大学病院総合周産期母子医療センター 3) 昭和大学藤が丘病院
・ 日本新生児看護学会誌 Vol.16, No.1 : 39 ~ 42, 2010

I. Family-Centered Care の概念とその変遷 首都大学東京健康福祉学部看護学科 浅井 宏美

1. 周産期領域の FCC の変遷

1960～1970年代、母性看護領域では、夫立会い分娩が増加し、ケアの受け手側の運動が高まってきた時代で、Wiedenbach が FCC の重要性を述べている。また、小児看護領域でも「両親は子どものケア提供・養育・保護の権利と責任を持つ」ことが提唱され、子どもと家族両者を重要視するようになってきた。1970年代後半～1980年代には、Klaus と Kennel による母と子の絆の形成に関する初期の研究が行われ、医療技術の進歩により子どもの救命率が著しく上昇し、子どものケアへ両親が積極的に参画するようになった。一方で、救命優先の医療によって親子の相互作用、家族関係の健全な発達を阻害してきたことが反省点として指摘されるようになり、NICU では児へのストレスを最小限にし、児の正常な発育・発達、親子の相互作用を促進するものとして、Developmental Care が広まった。1980年代後半～1990年代には、米国に患者と家族中心のケアの理解と実践を促すことを目的として、Institute for Family-Centered Care (以下、IFCC) が設立された。

2. Developmental Care の基本概念

Developmental Care の基本概念は、①児の発達に適した環境を整えること②児のストレスに対する個々の行動パターンを認識し、ストレス行動が起きないように扱うこと③児の養育に家族を取り込むこと④家族の情緒的支援を行うことの4点に集約される¹⁾。この③と④は、これまでの医療者中心の医療から患者および家族を中心とした医療 (Patient-and Family-Centered Care) へ変革する重要性を指摘していると言える。

3. FCC の基本概念

IFCC によると、「FCC とは、家族と医療従事者の双方にとって有益なパートナーシップに基づくヘルスケアの計画、実施、評価へのアプローチである。これはあらゆる年齢層の患者にとって、健康を守るために、家族が重要な役割を果たしているという認識に基づいている。FCC において、家族とはそれぞれが定義する“家族”であり、ケアや意思決定にどのように参画するかを患者・家族が決定する。」と定義されている。また、FCC の中核となる概念として、①尊厳と尊敬 (Dignity and Respect) ②情報の共有 (Information Sharing) ③参加 (Participation) ④協働 (Collaboration) という4つの要素を挙げている²⁾。IFCC は FCC の理解と実践を促すために、学会やセミナーの開催、出版物の発行など様々な取り組みを行っている。

4. FCC の利点～患者と家族にとって～

産科領域では、帝王切開率や硬膜外麻酔の使用率の低

下、分娩時間の短縮、NICU 領域では、子どもと家族の愛着形成の促進、育児に対する意欲・自信の高まり、育児技術の向上、個別的で発達的なケアの提供、入院期間の短縮化やコスト削減などの利点が報告されている³⁾、⁴⁾。

5. FCC の利点～医療者にとって～

家族とのコミュニケーションが増えることにより、家族との良好な関係の構築や、ケア実践に対する自己効力感が増し、職務満足度の向上につながっている。

6. FCC を妨げるもの

FCC を妨げるものとして、①家族と医療者との認識のズレ、②医療におけるパターナリズム、③医療者の FCC に関する教育の不足の3つが指摘されている。パターナリズムは、医師だけではなく看護師も患者に対して「現在の患者のことは看護師が一番よくわかっている」「家族は看護師を頼るべき存在」という態度をとる傾向にあり、医療者と患者の対等な関係を築く障害となっている。とりわけ NICU では、子どもは家族にとって、新しいメンバーであり、その子どもとの生活体験がないという特殊性があり、このような看護師の態度は親にとって自信を喪失する体験となり、FCC の障害となり得る。

7. 米国の NICU における FCC の取り組み

1) オレゴン州レガシー・エマニュエルこども病院： 尊厳と尊重、情報の共有

NICU の入り口には、入院する子どもと家族の権利が謳われており、ヘルスケアチームの理念に関する声明文には、個々のヘルスケアチームメンバーの署名が記載されている。子どもが NICU に入院した両親には、「Family Handbook」⁵⁾が渡される。この冊子は、①全般的な情報②FCC③ファミリージャーナル④成長と発達⑤役立つ社会資源⑥用語解説という6項目から成り、患児と家族に役立つ多くの情報や社会資源が紹介されている。

2) ワシントン大学メディカルセンター：家族と医療者の協働

NICU には、入院中の患児の親を退院した児の親がサポートする「The NICU Parent Mentor Program」⁶⁾というプログラムがあり、同じ体験をしたピアサポーターの力を借り、医療者と体験者である家族が協働して入院中の児の家族を支援する取り組みを行っている。

8. 日本の現状に関する研究報告「NICU の看護師の FCC に関する実践と信念」

2007 年に関東圏内の NICU の看護師を対象とした研究結果を報告した。一部は日本新生児看護学会誌、Voll5 (1), p10-19, 2009. に公表している⁷⁾。

【引用文献】

1) 堀内勤：新生児ケアのありかたとデベロプメンタルケア、

- 周産期医学, 31 (1), 95-100, 2001.
- 2) Institute for Family-Centered Care. Core concepts of patient-and family- centered care. <http://www.familycenteredcare.org/pdf/CoreConcepts.pdf>, 2007.
 - 3) Klaus, M. H., Kennell, J. H., & Klaus, P. H. : *The Doula Book : How a Trained Labor Companion Can Help You Have a Shorter, Easier, and Healthier Birth*, 2002.竹内徹, 長島すみえ訳: The doula book短く・楽で・自然なお産の鍵を握る女性 ザ・ドゥーラ・ブック. メディカ出版, 2006.
 - 4) Als, H., Lawhon, G., Duffy, F. H., McAnulty, G. B., Gibes-Grossman, R., & Blickman, J. G. : Individualized developmental care for the very low-birth-weight preterm infant. Medical and neurofunctional effects. *JAMA*, 272 (11), 853-858, 1994.
 - 5) Legacy Emmanuel Children's Hospital : Legacy Emmanuel Neonatal Intensive Care Unit Family Handbook. [Brochure], 2004
 - 6) University of Washington Medical Center : NICU Parent Mentors-Emotional Support for Parents with a Baby in Neonatal Intensive Care. [Brochure], 2005.
 - 7) 浅井宏美: NICUにおける看護師のファミリーセンタードケアに関する実践と信念, 日本新生児看護学会誌, 15(1), 10-19, 2009.

II. Family-Centered Care の概念に基づく臨床での実際の取り組み

昭和大学病院総合周産期母子医療センター
井出 由美

1. 継続教育に関する取り組み

NICU 看護は, 看護基礎教育ではほとんど取り扱われない分野であり, 継続教育の果たす役割が非常に大きいと考える. FCC については, これまで経験に基づいて家族にかかわる傾向があり, FCC の概念に関する教育は十分ではなかった. 筆者は 2007 年に FCC に関する教育プログラムの作成と評価に取り組み, その後も研究をベースに教育プログラムを臨床で活用している.

この教育プログラムは, 90 分/回×6 回で3ヶ月コースの集合教育を中心に, 常に個別のコンサルテーションに対応する体制をとっている. 特徴は, ①継続的な学習によって FCC マインドを育む, ②少人数制, ③自己効力感や達成感を高める, などが挙げられ, 受講者には意識, 価値観, 態度, コミュニケーションの変化をもたらす効果がある.

これまでに新人や NICU に異動してきたスタッフを中心に 4 期延べ 30 名が修了し, 徐々にスタッフの家族

に対する意識やかかわり方が変化しつつある. 今後さらに, ひとりひとりのスタッフが, FCC の概念を本質的に理解し, 実践に反映され, FCC が組織文化として醸成されることを目指して, 活動を継続していきたいと考える.

2. システムおよび環境整備

当院は 2009 年 3 月に増床改築工事を終え, これを契機に FCC の概念を取り入れたシステムの変更と環境整備に取り組んだ.

1) システムの変更 (FCC の中心概念 [尊厳と尊敬] [情報共有] [参加] に関連した取り組み)

以前の面会時間は 13 時~20 時であり, 家族の参加も限られていたが, 24 時間面会の下で, 家族がいつでも子どもに会えることを保障し, 家族は子どもにとって最も大切な第一義的な養育者であるという考えに基づき院内育児を推進している. 入院当初から退院後の生活を見据え, 家族が子どもとの関係性を育むとともに, 家族が自信をもって育児に取り組めることを目指している. おむつ交換や授乳, 沐浴など基本的な育児行動を始め, 在宅療養で必要とする医療処置も, 家族とケア提供者が話し合いながら, 比較的早期より家族が行なっている.

2) 環境整備 (FCC の中心概念 [尊厳と尊敬] [参加] に関連した取り組み)

NICU12 床分にロールスクリーンを設置し, 完全ではないもののプライバシーに配慮した環境を提供できるようになった. ベッドサイドでは, いつでも直接授乳や搾乳, カンガルーケアが実施可能となり, ターミナル期や処置時などにも活用している.

3. 家族とケア提供者との協働プロジェクト

1) 説明ツールの作成 (FCC の中心概念 [情報共有] [参加] [協働] に関連した取り組み)

以前はスタッフの説明に対する役割意識が十分ではなく, 説明の必要性について認識が乏しい状況があり, 家族からの質問には個々のスタッフの対応に任されていた. そこで, 説明内容の質を確保し, 家族のセルフケアや参加を促進するために説明ツールの作成に取り組んだ. まずはこれまでも家族から質問がよく聞かれていた子どもに侵襲のある検査 (MRI 検査, 眼科診察, 計画抜管等) や退院準備 (内服薬の投与, 自律哺乳等) にかかわる項目から取りかかり, 作成のプロセスにおいて家族の意見も反映させた.

2) 季節の行事 (FCC の中心概念 [尊厳と尊敬] [参加] [協働] に関連した取り組み)

分離状態にある家族にとって NICU は, 子どもと過ごす場であるとともに, 見慣れない医療機器に囲まれた治療の場でもあり非日常の環境である. 治療を余儀なくされている子どもたちを目の前にして, 自責や無力感に苛まれる. 親役割獲得の支援やライフイベントの提供,

コミュニケーションの促進（家族内，親同士，家族とスタッフ）などを目的にして，2007年度から季節の行事（こどもの日，七夕，クリスマス，ひな祭り）を家族（兄弟や祖父母も巻き込んで）とともに企画，運営している。

4. 海外からの情報

IFCCが主催する国際学会 The 4th International Conference on Patient and Family-Centered Care が，2009年8月17日から19日に，アメリカ・フィラデルフィアで開催された。そこで筆者が注目したトピックスである「NICUの個室化」を挙げ，新しいNICUの1つの形として情報提供した。

アメリカ・オハイオ州にある University Hospital's Rainbow Babies & Children's Hospital のNICUである。10年前にアメリカで初めてNICUの個室化にチャレンジしたこの施設が，2006年にさらにFCCの概念に基づいて改装を行なった。それにより，家族の参加，家族とスタッフのディスカッション，スタッフ間のコミュニケーションの充実，ディベロップメンタルケアの促進を可能にしたと報告していた。改装に際し，デザイン等に患者家族の意見も大いに反映されたという。広々とした

病室には，患者・家族・スタッフの各スペースが十分に確保され，患者と家族の安全やプライバシー，快適さだけでなく，スタッフの働きやすさにも配慮されていた。日本では，まだ個室化されたNICUは存在しない。日本の病院の環境や医療制度の中では，なかなか実現するのは難しいと思うが，NICUの環境を考える上で私たちが学ぶべき点が多いと考える。

【文 献】

- 1) 井出由美：NICUにおける新人教育 - Family-Centered Careを中心に -，小児看護，32 (13)：1688-1693，2009
- 2) 井出由美：The 4th International Conference on Patient and Family-Centered Careに参加して，Neonatal Care，23 (1)：50-53，2010

本稿は，平成21年11月29日・30日に開かれた第19回日本新生児看護学会学術集会のプログラムの1つとして行われたワークショップをまとめたものである。